

Cisco Prime Collaboration 保証 (PCA) 重複エンドポイントを解決する方法

目次

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[問題](#)

[解決策](#)

[ルートアクセス](#)

概要

この資料に Cisco Prime Collaboration 保証重複エンドポイントを解決する方法を記述されています。

ヨセフ Koglin によって貢献される、Cisco TAC エンジニア

前提条件

要件

次の項目に関する知識が推奨されます。

- コンポーネント モジュールおよびそのナレッジは主な保証内のオペレーションです
- 主な保証に関する基本的な Linux 基本

この資料はこの設定が設定されるように要求します:

- 完全なルートアクセスはです必要-ルートアクセスが一番下セクション名ルートアクセスを参照するのをアクセスできなければ
- 主な保証アプリケーションはインストールされ、在庫管理システムのエンドポイントを重複させました。例: 同じ名前の2つのエンドポイント: SEPAA11BB22CC3

注: この技術情報で説明されるオペレーションは影響を与えるデータベースですそれ故にこれらのステップは巧妙な指導でだけ遂行する必要があります。PCA 12.1 ではコンポーネント機能が分解検査されたのでとりわけ、これらのステップの要件は起こるべきではありませんでしたり巧妙な管理の下最後の解決策として考慮することができます。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアのバージョンに基づくものです。

- 主な保証コマンド・ライン インターフェイス
- 主な保証コンポーネント モジュール
- 適当なすべてのソフトウェア バージョン
- 必要なハードウェア要件無し

本書の情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用されるすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。ネットワークがライブである場合、あらゆるコマンドの潜在的影響を理解するようにして下さい

問題

Cisco プライム記号保証-重複した電話

この資料はシステムの電話を複製するか、またはシナリオがエンドポイントの取除の適当再追加する環境のためであり。

このプロセスはすべての電話を取除き、後それはプロセスそれらを再追加します

解決策

ステップ 1.ルートおよびポート 26 としてセキュア シェル (SSH) による PCA へのログイン

ステップ 2.入力。 `cd /opt/emms/emsam/bin/`

ステップ 3.Now 入力のサービスを停止します。 `./cpcmcontrol.sh 停止`

ステップ 4 入力によって今すべてのサービスを確認するためにダウンしていますチェックします。`./cpcmcontrol.sh ステータス`

- すべてのサービスがダウンしていたら次のステップに行ってください

ステップ 5 入力から今データベース サービスだけ開始します。 `./start_db.sh`

ステップ 6 およびステップ 7 はステップ 11 システムのデータベースから電話を、に再びそれらを持って来る取除きます

ステップ 6.入力。完了するまで `./refreshCDT.sh` (待機)

ステップ 7.入力。完了するまで `./refreshPhone.sh` (待機)

ステップ 8 この場合サービスに入力のバックアップを持って来ます。 `./cpcmcontrol.sh 再始動`

(すべてのサービスを確認するために `./cpcmcontrol.sh ステータス`を戻って来ます定期的に行ってください)

ステップ 9 : GUI がログイン globaladmin ユーザとしておよび戻って来るとき次のステップとしてクラスタ データ ディスカバリをして下さい。

ステップ 10 : 次にクラスタ データ ディスカバリを行います: `Navigateto Inventory>Inventory schedule>Cluster データ ディスカバリ。`

ステップ 11. 『Run Now』 を選択して下さい (このステップは電話を取得します)

ステップ 12 : それが終了し、電話がもどって来るおよび重複を持つはずであるまで待ってください。

注: このディスカバリはクラスタでエンドポイントの数に依存して、完了への時間は変わる

かもしれません

例として開始するを比較でき、終了時刻は完了するためにだけこの特定の 1 つを見るために 38 秒かかり。

The screenshot shows the Cisco Prime Collaboration Assurance interface. At the top, there is a navigation bar with the Cisco logo and the text "Prime Collaboration Assurance". Below this is a breadcrumb trail: "Home / Inventory / Inventory Schedule". There are three tabs: "IP Phone Inventory Schedule", "IP Phone XML Inventory Schedule", and "Cluster Data Discovery Schedule", with the last one being active. The main heading is "Cluster Data Discovery Schedule". Underneath, there is a section titled "Cluster Device Discovery Status" with the following information: "Discovery Status Discovery completed", "Last Discovery Start Time 07-Sep-2017 12:00:00 AM EDT", and "Last Discovery End Time 07-Sep-2017 12:00:38 AM EDT". Below that is a section titled "Cluster Device Discovery Schedule" with the text: "The following schedule is configured and is active. To apply your changes, select Apply when you have finished any operations." There are two dropdown menus for "Hour" and "Minute", both set to "0". At the bottom of this section are two buttons: "Apply" and "Run Now".

注: 情報提供を目的として PCA はリアルタイム情報サービス (RIS) および管理上の拡張マークアップ言語 (AXL) によって Cisco Unified 通信マネージャ (CUCM) パブリッシャから電話を取得します

どの問題でも見つけられる場合有用なログ:

まだ出会えば重複は検討するために述べられるログを示します

注: 完全なルートアクセスはセクション ルートアクセスを参照することを持たない場合、必要です。完全なルートアクセスがポート 26 およびルート ユーザ 資格情報を接続し、使用するのに有効になったら Winscp のようなプログラムを使用して下さい。

/opt/emms/cuom/log/CUOM/CDT

RISCollection.log、CDT.log、CDTAPI.log、CDTAudit.log

/opt/emms/emsam/log/Inventory/CDT.log

/opt/emms/emsam/log/Tomcat/CDT.log

/var/log/refreshPhone.log <-- これはスクリプト実行に関する問題があったかどうか知らせます

それ以上のトラブルシューティングの注記およびバックグラウンド情報:

またこれがいくつかの矛盾か問題を片付けることができると同時にコール マネージャ クラスタの RIS サービスを再開できるかどうか見たいと思う場合もあります。

電話が cucm で集められる場合 axl+ris を使用したり、従って持っていれば cucm の RIS サー

ビスを再開したいと思う場合もあります発行します。

AXL サービスの再始動が営業時間の間に推奨されない一方クラスタの RIS サービスを再開する場合ビジネスインパクトがありません。

さらにまれに AXL サービスを再開する必要がありません従ってすること従っての前にログを再始動が必要であるかどうか見るために参照します。

またコール マネージャを管理されます確認すれば System>Server の下の cucm で cucm パブリッシャ ホスト名は /ip ping 可能、解決可能です。

IP としてコール マネージャを検出し、管理したケースに動作することができるように、コール マネージャの System>Server でホスト名によってリストされているどんなに。

起こるものが PCA が IP によって管理されたので cucm が管理されてもそれから決してこれらの電話を受け取らないそれをホスト名としてリストしてもらう pca によって解決可能でなければ場合しかしそれを System>server の下でそうリストされているリストする axl+ris によって電話を集めるときあり。

このシナリオは 2 つの方法によって固定されます:

シナリオ 1

ステップ 1. SSH ルート ユーザおよびポート 26 を通した PCA へのログイン

ステップ 2. Cd /etc

ステップ 3. VI ホスト

ステップ 4.は挿入のために『i』を押します

- 一例としてに置かれる (領域中間 IP およびホスト名があります)
- この例で 10.10.10.10 および testexample.csc.edu は使用されています。

```
# Do not remove the following line, or various programs
# that require network functionality will fail.
127.0.0.1          localhost.localdomain localhost
::1              localhost6.localdomain6 localhost6
172.20.116.24    cm90assu
10.10.10.10      testexample.csc.edu
```

ステップ 5.コール マネージャをその後再発見して下さい。次のとおりに移動します。

Inventory>Inventory Management>Infrastructure>UC Applications>Communications サーバ

シナリオ 2

ステップ1。ネーム・サービス (DNS) 逆ルックアップが影響を受けたデバイスのための dns によって解決可能である Domanin を確認して下さい。

ステップ 2。コール マネージャ クラスタを再発見して下さい。次のとおりに移動します。

Inventory>Inventory Management>Infrastructure>UC Applications>Communications サーバ

- 影響を受けたコール マネージャを選択し、再発見します選択して下さい

ルートアクセス

このセクションは PCA のための完全なルートアクセスを得る方法を記述します

ステップ 1.管理者ユーザとして PCA および使用ポート 26 への SSH によるログイン

ステップ 2.入力。 **root_enable**

ほしいルートパスワードを打ち込んで下さい

ステップ 3.入力。 **ルート**はルートパスワードを打ち込み、

ステップ 4 ルート入力としてログオンされて。 **/opt/emms/emsam/bin/enableRoot.sh**

ステップ 5.入力。 **パスワード**はルートパスワードで再入力し、

ルートとして SSH セッションおよび再ログを直接閉じられます今はずです